青森県立保健大学附属図書館だより

Rapport

2025
No. 40

教員からのメッセージ

他人を気にしすぎないで生きる

看護学科 講師　成田 繁人

なぜ読書が必要なのか？～読書がもたらすもの～

理学療法学科 教授　諸橋 勇

Books and Cross-Cultural Understanding

健康科学総合教育部門 助教　クリストファー・ホーン

40号記念特集 ラポールのこれまで

学生の図書館活用方法

社会福祉学科４年
畠山 知華子

栄養学科３年
菊池 日和 | 林下 凛

健康科学研究科 博士後期課程１年
杉本 一生

シリーズ
図書館を使いこなそう
第40回 Japan Knowledge（ジャパンナレッジ）紹介

Rapport ＝ フランス語で、関係・関連・類似点
ラポールは、人間同士 (学生・教職員・地域住民・県民) のつながりを意味します

教員からのメッセージ

他人を気にしすぎないで生きる

看護学科 講師
成田 繁人
NARITA SHIGEHITO

最初にお伝えしておきたいことは、私は本を読むのが苦手です。昔から、じっとしていることが苦手でした。体を動かすほうが好きでした。しかし、そんな私が 1 冊の本と出会い、ある金言を得ることができました。今回は、そんな本嫌いな私が金言と出会ったエピソードを少し紹介します。

「ビブリオバトル」をご存じですか？京都大学の先生が考案した書評ゲームです。それぞれが自分の紹介したい本を持ち寄り、その魅力を 5 分で紹介します。どの本を一番読みたいと思ったかを全員で投票し一番票を取った本がチャンプ本になります。このゲームの狙いは、スピーチ能力の向上と参加者同士のコミュニケーションにあります。時は 10 年ほど前、私は認定看護師の資格を取得するために神戸で研修を受けていました。研修担当者から、笑いをテーマにビブリオバトルをするとお達しがありました。「本が嫌いなのにそれを紹介するなんて・・・」と思いながら、書店でお笑い芸人が書いた本をふと手に取りました。「コントで笑いが取れず失敗した時にどうするか」が記されていました。「10 年後、このコントの失敗を誰が覚えているか。失敗を覚えているのは自分だけ。自分が思っているほど他人は気にしていない。」という内容が書かれていました。なぜだか心がふーっと軽くなったのを今でも覚えています。これが、私が今でも信条としている金言との出会いです。私が出会った本とは別ですが、精神科医 Tomy さんの「他人を気にしない自分になる」という本にも、同じようなことが書かれています。おすすめの本です。

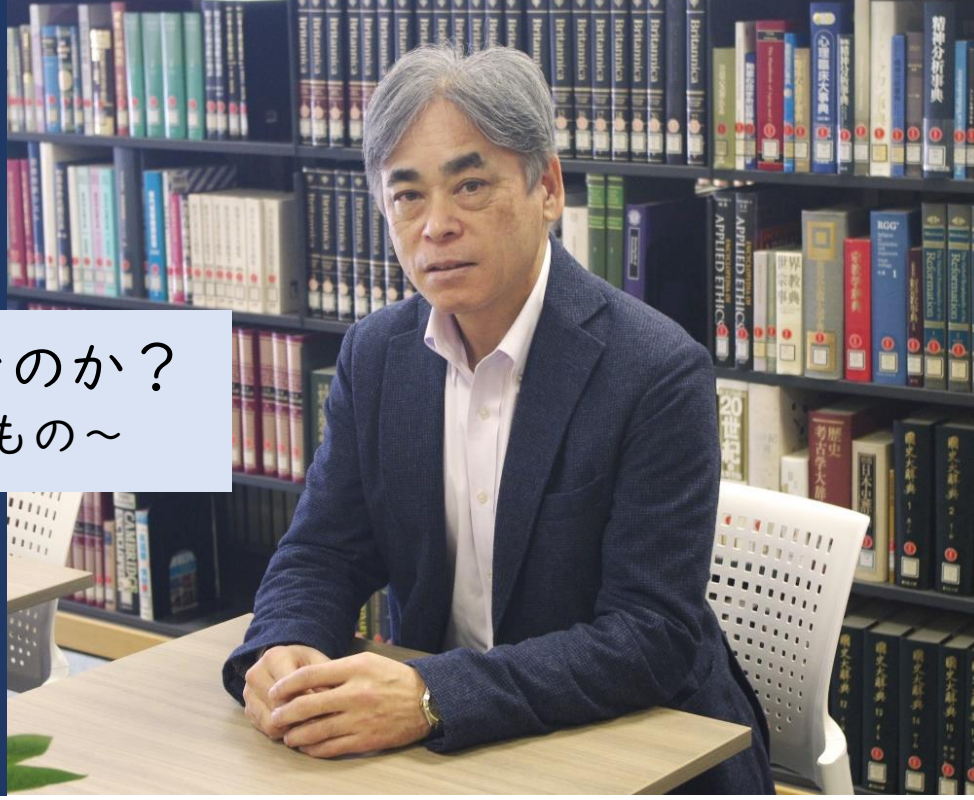
この本と出会って、「人前での失敗をそれほど気にしなくなった」ことが私自身感じた一番の変化です。他人を気にしすぎないで、何事もやらないよりやってみることにしています。私が良い例であるように、嫌なことや取り組みたくないことからも、もしかしたら何かしら得られるものがあるのかもしれません。みなさんにも、1 つでもこのような出会いがあることを願っています。自分をラクにして、キャンパスライフを楽しみましょう。

『他人を気にしない自分になる』
精神科医 Tomy
PHP 研究所
159||To62

『他人の目を気にしない技術』
諸富祥彦
大和出版
146.8||Mo77

教員からのメッセージ

なぜ読書が必要なのか？
～読書がもたらすもの～



理学療法学科 教授
諸橋 勇
MOROHASHI ISAMU

ある調査では、1 ヶ月に一冊も本を読まない人が 6 割に上ると言われる。本以外から情報を得ることは可能だが、読書は単なる情報収集にとどまらず、私たちの思考や脳の発達に深く関わる営みである。

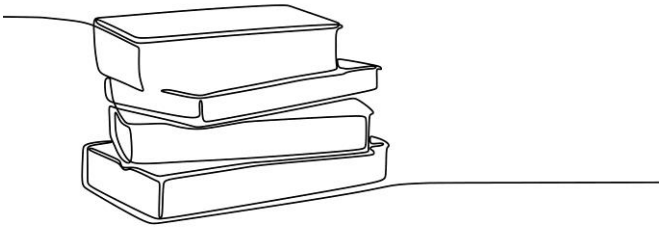
「自分の関心ごとが分からない時は書店へ行きなさい」という言葉がある。私も実践しているが、書店を訪れることで、自分の無自覚な関心や欲求、不安が、目に留まるタイトルや思わず手に取る本によって顕在化する。インターネット検索は既存の興味に偏りがちだが、書店では予想外のキーワードや本と出会える。

また、現代は人間関係が希薄になり、他者の心理を読み取る力が衰えていると感じる。その背景には、他者の思考を想像する力の不足があるのではないか。我々は視覚情報にあふれた環境に生きているが、読書は限られた情報から情景や登場人物を想像する力を養う。こうした経験は、創造的思考や問題解決能力の向上につながり、人の心を察する力を育む。

読書は言語能力に関わるブローカ野やウェルニッケ野、記憶を司る前頭前野が活性化し、神経回路が強化される。特に新しい分野の本を読むことは、脳の柔軟性を高め、未知の情報を処理する能力を鍛え、認知機能向上に寄与すると考えられている。

さらに、語彙力の向上も重要である。現代のコミュニケーションは短縮･単純化されがちであり、語彙が乏しくなると微妙なニュアンスを伝えたり、複雑な思考を表現することが難しくなる。

最後に出版関係の仕事をされていた患者さんが、「本は 3 回読むべきだ」と教えてくれた。「1 回目は内容を知るため、2 回目は自分の考えや行動への影響を吟味するため、3 回目は人に話すために読む」という。このように、読書は関心を探り、想像力を養い、脳を活性化し、語彙力を高め、人に伝える力を培う。これらは保健・医療・福祉の専門職にも必要な能力であり、あえて本を開き、じっくりと文章に向き合う時間を大切にすることをお薦めする。



教員からのメッセージ

Books and Cross-Cultural Understanding

健康科学総合教育部門 助教
Christopher Horne
クリストファー　ホーン

写真：高校時代のクリス先生

When I was a child, I felt proud when I read thick books. I loved fantasy novels, just like my mother, and often stayed up late reading under my blanket with a flashlight. On rainy days, I even took books to school and read in the library during lunch.

One day, a mobile library visited my school. That's when I found a book that opened from left to right. This was before the internet was common, so it was the first time eight-year-old Chris learned about a country called Japan. Looking back, I think it was a light novel translated into English. Later, I borrowed the only Japanese book at my town's library, but I couldn't picture the "black uniform with gold buttons" described in the story.

In junior high school, I started learning Japanese. In my third year, I joined a one-week exchange program at a Japanese school. As I rode my bicycle to school, I saw the same scenes described in that book—narrow roads and students in uniforms. The "black uniform with gold buttons" I couldn't imagine before was now real, worn by the boys at school. It was a Gakuran, of course.

In high school, I studied in Japan for a year. During the summer vacation I found a Japanese light novel at the local library. With my host father's dictionary (he was a Japanese teacher), I finished reading it over the summer vacation. The book showed everyday high school life in Japan, including jokes like "tsukkomi," which I didn't fully understand. Even after living there for six months, I was still learning new things from this book. One this in particular I was able to notice was a boy who often responded to things I said with "tsukkomi." I had thought he didn't like me because he often made these sharp comments, but after read that book, I realized that was just his way of having fun. Nishimoto-kun, I'm sorry!

This was a long story, but books introduced me to Japan and its culture. They do more than share words—they show the writer's background and values. This is true for fiction, nonfiction, and even translated books. Today, the internet lets us see many things but I also recommend reading a book as another way to experience another culture. Our university library and Aomori City libraries have many books in English. If you find one, why not give it a try?

40号記念特集

ラポールのこれまで

History of the AUHW Library Magazine: Rapport

おかげさまでラポールは今号で40号を数えることとなりました。これを記念して、40枚の表紙画像とともに、これまでのラポールの歩みを振り返ります。

2003

1

ラポール創刊！

2003年10月、新たな図書館サービスの一つとして、図書館だより「ラポール」が誕生しました。以降、年2回の頻度で発行されます。

「ラポール」という名称は、学生・教職員に公募し、当時在籍されていた桜木康広先生(理学療法学科)の案が採用されました。

2004

2

シリーズ「図書館を使いこなそう」は、図書館の基本的な使い方や新しく導入したサービスなどを紹介するコーナーで、創刊号から現在まで続いている息の長い連載企画。
第1回は蔵書検索方法についてでした。

3

本の紹介記事掲載スタート

第3号からは本の紹介記事が掲載されるようになります。
各学科の先生方からの推薦図書がずらり。

2005

4

記事を読んで興味を持った本を手に取れるようにと、図書館内には記事と連動した展示が行われるようになります。

5

つながりを生み出すことを目標に…

号を重ねるにつれ、学生による記事が少しずつ増えていきます。
図書館でアルバイトをした経験談、先輩から新入生へのメッセージ、後輩に薦めたい本、などなど。

2006

6

図書館から一方的に情報を提供するのではなく、学生と学生の交流の場でもあってほしいというのが図書館スタッフの願いです。

7

“ラポール”は人間同士のつながりを意味する言葉ですからね。

2007

8

紙の発行終了

第8号は紙媒体での発行最終号。ラポールの歴史の一つの転換点と言えます。

紙版の用紙は少し厚手で手触りの良い紙質でした。この感触との別れは少し寂しいものがあります…。

2008

オールカラー化

Web発行に移行したことで、色数やページ数の制約から解放され、制作時の自由度が広がりました。

おすすめ本の書影の掲載も始まり、誌面が華やかに。

顔写真の掲載に応じてくださった執筆者には、図書館内のお気に入りの場所でポーズをとっていただき、撮影を行いました。

2009

誌面デザイン一新！

「Rapport」の題字を大きくあしらい、画像を効果的に使った目を引くデザインに一新しました。

ラポールのレイアウトデザインは図書館スタッフが行っています。

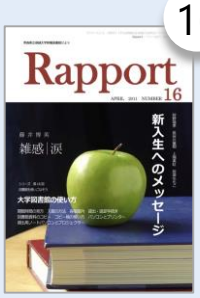
大学図書館としての品位を保ちつつ、遊び心のある誌面づくりを目指しているんですよ。

2010

読む人に楽しんでいただきたい、というのはもちろんですが、執筆者にも原稿を書いて良かったと感じていただけるようなものにしたいと思いながら作っています。

たくさんの人の協力があって初めて、ラポールは成り立っているのですから。

2011



リポジトリ紹介記事掲載

2010年6月に正式公開された本学のリポジトリA-plus(アプラス)を紹介する記事を掲載。

オープンアクセスについて知ってもらう活動も度々行っています。

2012

トリゾウ誕生！

ついに、われらが広報キャラクター、トリゾウ誕生！

ラポール初登場は16号。この時はとても小さなカットイラストでしたが、17号からは満を持して表紙に進出！

初期はほぼ直立不動の姿ばかりでしたが、次第に本を読んだりパソコンを操作したりと動き始め、じわじわと存在感を増していきます。

2013

創刊20号記念

20号記念特別企画では「20歳のころ、どんな本を読んでいましたか？」と題し、教職員の思い出の本を紹介しました。

21 電子書籍サービス開始

電子ジャーナルは早くから導入していましたが、電子書籍サービスは2013年より開始。
少しずつ図書館資料の形態が紙と電子のハイブリッド化していきます。

2014

22 図書館活用術＆自著紹介

23号から10回に渡り、教員による「図書館活用術」をシリーズで掲載。
学生を指導する立場からのアドバイスもあれば、ご自身の学生時代の経験談などもあり、先生方の個性が光ります。

2015

25号からは10回に渡り、本学の教員が携わった本を紹介する「自著紹介」を掲載。
内容についての解説や、執筆にあたっての想いなどを綴っていただきました。

25 リポジトリ5周年記念 スペシャルインタビュー掲載

リポジトリA-plus正式公開5周年となったこの年、オープンアクセスウィークの企画として、リポジトリに論文を提供してくださった4名の先生方へのインタビューを行いました。

インタビューのダイジェスト版は大学のエントランスロビーでポスター展示。25号には、完全版を15ページにわたって掲載しました。

エントランスロビーでの展示の様子

2016

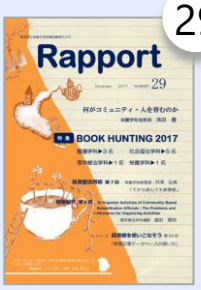
回を重ねる人気企画 ブックハンティング

ブックハンティングはラポールの記事としても、図書館内での展示としても人気の企画。

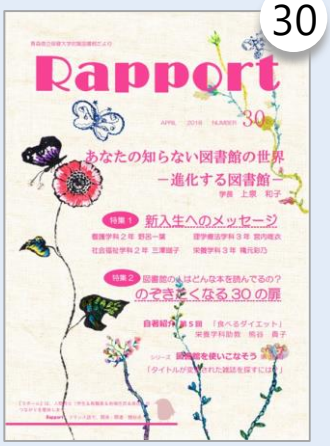
学生に「図書館にあったらいいな」と思う本を選んでもらい、図書館の蔵書とします。
若い感性で選ばれたラインナップは、やはり学生の反響が大きく、頻繁に貸出されました。

2017

初期は実際に書店に足を運んでの選書のみでしたが、オンラインによる選書も選択肢に加えるようにし、学生が自分の好みのスタイルで参加できるように変更しました。



2018



30 創刊30号記念

30号記念特別企画「のぞきたくなる30の扉」を掲載。図書館スタッフがテーマに沿って30冊の本を紹介しました。

増 開学20周年記念増刊号

初めての増刊号発行。20周年にちなみ、20号で好評だった「20歳のころ、どんな本を読んでいましたか？」を再度特集。

ヘルスリテラシー ブックフェア

2016年から2019年にかけて、ヘルスリテラシーに関連する図書90冊のリストを作成し、青森県内の図書館に貸出する活動を行いました。
館内にも「ヘルスリテラシーブックフェア」と題して展示。31号から35号まで、関連本の紹介記事を掲載しました。

2019

ブックフェアのポスター

COVID-19の影響

三密、オンライン授業…そんな言葉がちらほらと記事に見受けられるようになります。

2020

ブックハンティングも、インターネット書店を利用したオンライン選書のみに変更を余儀なくされました。

どの業界も手探りの状態でしたが、大学図書館も例外ではなく、これまで対面で行っていたサービスを遠隔で利用できるように工夫したり、電子書籍の購入数を増やしたりと、これまで同様とはいかないまでも、少しでも学習環境を良いものにするために試行錯誤を繰り返しました。

2021

マイナーチェンジ

36号から、入学式に合わせた年1回の発行に変更。

内容もリニューアルし、35号までの教員による図書館活用術に代わり、「学生の図書館活用方法」がスタートします。

2022

コロナ禍を経て…

リモートアクセス方法の紹介など、来館せずに資料にアクセスするための記事の掲載が続きます。

2023

コロナ禍で否応なしに進んだ感のあるリモートアクセス化ですが、結果的には実習先や自宅での学習が便利になり、日常を取り戻しつつある現在では、来館利用と遠隔利用を上手く併用していただけるようになりました。

2024

学術情報や資料へのアクセス方法がずいぶんと多様化しましたが、コロナ禍を経てなお、図書館を利用しよう！足を運ぼう！という内容の記事を寄せてくださる方が毎号のようにいらっしゃることは、図書館スタッフの励みとなっています。

2025

そして、その先へと続く…

40号記念特集「ラポールのこれまで」、楽しんでいただけましたでしょうか。
50号を迎えるころ(10年後です！)には、図書館は、そしてラポールはどう進化しているんでしょうね。

こちらから、すべての号をご覧いただけます。▶▶▶

学生の図書館活用方法

新しいことに興味を持てる場所

社会福祉学科 4年　畠山 知華子
HATAKEYAMA　CHIKAKO

図書館の魅力として、皆さんは何を思い浮かべますか？自習スペースやグループワークルームのほか、豊富な専門書をあげる人も多いでしょう。もちろん、試験期間の勉強には席数の多い図書館がうってつけですし、友達とちょっと真面目に課題に取り組みたいときにはグループワークルームが使いやすいですね。

大学生の勉強に適した図書館ですが、今回は試験や課題以外の視点から図書館の活用法をご紹介します。ちなみに勉強での活用法は昨年までのラポールをどうぞ。

まず紹介する活用法は、将来どの分野に進みたいかを考えるきっかけにするというものです。2 階の本棚には各学科の内容に関する本があります。なんとなくその背表紙をなぞっていると、授業で学んだことがどんな領域や職場で役に立つのか、思いをめぐらすことができます。本を 1 冊読むほどの元気はないという時、試験勉強に疲れた時におすすめです。もちろん、惹かれる本があればぜひ手に取ってみてくださいね。

また、まだ自分の知らない自分の好きなものを見つけることもできます。図書館の 1 階左手には、地域情報誌、ファッション誌、料理雑誌といった様々な雑誌の最新刊があります。情報収集に SNS を主に用いると好きなものに似た系統のものがたくさん見られますが、雑誌でそれ以外のものを見つけるのも新鮮です。アルバイトの前や電車待ちの時間に寄ってみてはいかがでしょうか。

それから番外編ですが、図書館ではたびたび利便性の向上などのためにアンケートを取っています。アンケートによっては、本学らしいグッズや図書館でしかもらえないようなおまけなどがもらえることがあります。簡単なものばかりなので、見かけたら答えてみることをおすすめします。

本学の図書館は一般の図書館と比べて小説などの文学は少ないですが、敬遠せずに、学生証があるうちにたくさん使ってみてくださいね。

私たちの図書館の活用法

栄養学科 3年　菊池 日和 | 林下 凛
KIKUCHI HIYORI　HAYASHISHITA RIN

皆さんは図書館を日常的に利用していますか？また、図書館を利用したいと思っていますか？ここでは私たちがどのように図書館を利用しているか紹介します。

図書館は本を読むための場所だと思っていましたが、ある日、定期試験の勉強のために足を踏み入れたら図書館には様々な活用法があることに気付きました。

図書館で勉強するメリットとして、周囲の人達に感化され、集中して勉強することができます。また、国家試験の過去問題集も置かれているため、それを利用して復習に活かすことができます。栄養学科の場合は、ある教科の定期試験で国家試験の過去問題集から出題されることもあります。約7年分の過去問題集を見たことがあるので復習には最適です。

皆さんは図書館では無言で勉強しなければならない、そう思っていませんか？本学の図書館にはグループ学習室が設置されており、友達と話しながら勉強することもできます。グループ学習室にはホワイトボードが設置されているため、学習内容のアウトプットやグループで話し合い等をする際のまとめに役立ちます。

さらに、実験のレポートの参考文献として図書館の資料を利用したこともあります。栄養学科の実験では得られた実験結果と基準値を比較し、考察します。その際に基準値が教科書に掲載されていないということがありました。基本的にレポートを書く際にはインターネットの情報は鵜呑みにせず、専門書や学術論文を使用した方がより確実な物になります。そのため、レポートを書く際には図書館の資料は大いに役に立つと思います。

最後に図書館を使用する1番のメリットは、頑張っている人が周りにたくさんいることです。例えば、定期試験の勉強、論文作成、国家試験の勉強など、様々な面で努力している人たちがいるので、刺激を受け目標に向かって取り組むことが出来ると思います。

図書館には様々な活用法があり、その活用の仕方も十人十色です。自分に適した利用法で図書館を利用してみてはいかがでしょうか。図書館を使用することで知らないメリットが見つかるかもしれません。

時空を超越し 自分の慧眼を磨き続ける

健康科学研究科　博士後期課程 1年
杉本 一生
SUGIMOTO　ISSEI

私は本学の図書館でステキな言葉や重要な知見に度々出会っています。その出会いは私にとって、ある種の時空を超越したものであり、自分の慧眼を磨くことに繋がっています。

あるステキな言葉との出会いは、私が本学の理学療法学科学生時代に図書館にふらりと立ち寄った時です。その言葉は図書館 1 階エレベーター前の、とある先生のオススメ本コーナーの中にありました。それは「μεράκι（メラキ）」というギリシャ語で、「なにかに、自分の魂と愛情を、めいっぱい注いでいる。」というギリシャの文化を意味します（翻訳できない世界のことば、前田まゆみ訳、より引用）。その時、このような素晴らしい言葉が世界に存在する幽玄さに感動したことを今でも覚えています。

重要な知見とは、理学療法士/大学院生として現在進行形で出会い続けています。私は病院に勤務しながら、本学の大学院生として研究活動を行わせていただいております。臨床現場でも研究活動でも、経験を積むと同時に先行文献から知見を得て自分をアップデートすることが重要です。そこで、図書館の豊富な蔵書や文献検索データベースに助けられています。最近では多くの書籍や論文が紙媒体だけでなく電子媒体としても閲覧できます。様々な媒体や場所から過去～最新の知見にアクセスできることは、私が子どもの頃ではあり得ませんでした。この恵まれた環境にはいつも感謝しています。

このように、図書館では様々な人や時代に示された言葉や叡智に出会うことができます。大袈裟かもしれませんが、それは時空を超えた素晴らしい出会いとも言えますし、常に自分の慧眼が磨き続けられています。本学の図書館には私たちの学びを助ける専門書や、素晴らしい文学作品が豊富に所蔵されています。そして豊富な文献検索データベースを駆使すれば、より高度な知識にアクセスできます。ぜひ、本学の図書館を利用される皆様におかれましても、自分なりのステキな利用方法を探してみてくださいね。

『翻訳できない世界のことば』
エラ・フランシス・サンダース著
前田まゆみ訳　創元社　801.4||Sa62

シリーズ　図書館を使いこなそう

第40回

オンライン
百科事典・辞書

ジャパンナレッジ Japan Knowledge 紹介

この春から、大学で利用できるようになったデータベース Japan Knowledge Lib（ジャパンナレッジ）をご紹介します。Japan Knowledge Lib は、辞典・事典・叢書類を検索できるオンライン百科事典・辞書です。「日本大百科全書」「日本国語大辞典」「医学英和辞典」「現代用語の基礎知識」「日本統計年鑑」「日本古典文学全集」等多数のコンテンツが収録されています。利用したいコンテンツを選んで検索できるのはもちろん、複数のコンテンツを横断検索することもできます。

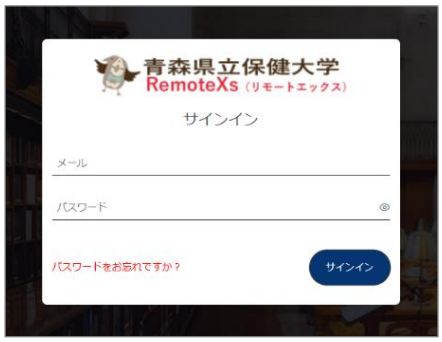
Google や Yahoo 等の検索エンジンでは、有料の事典類を検索することはできません。また、紙の辞書・事典は更新されませんが、Japan Knowledge Lib では最新版を使うことができます。

レポートの作成など、根拠が求められる場合に、ぜひ使ってみてはいかがですか。

1　ログイン方法

リモートアクセスサービス「RemoteXs」経由で、「Japan Knowledge Lib」へアクセスします。

❶ RemoteXs へアクセスして、自分の ID（学籍番号のメールアドレス）とパスワードを入力してサインインをクリックします。



■ RemoteXs　https://auhw.remotexs.co/ja/user/login

❷ RemoteXs のトップ画面に並んでいる「ジャパンナレッジ」をクリックします。

❸「Japan Knowledge Lib」のサイトにある「ログインする」をクリックします。

左上の「基本検索」「詳細（個別）検索」「本棚」のいずれかをクリックしてもログインすることができます。

ログインに成功すると、右上に大学名と「ログアウト」が表示されます。

MEMO

同時アクセス数「１」のため、クリックしてもログインできない場合は、他の方が利用中です。少し時間をおいてから、試してください。

❹ 利用が終わったら、「ログアウト」をクリックして閉じてください。

お願い

「ログアウト」をクリックせずにブラウザを閉じると、次に利用したい人がすぐにログインできない可能性があります。また、図書館のパソコンでは検索結果が残ってしまい、次にログインした人に検索結果が見られてしまう可能性があります。「ログアウト」をクリックして、正しく終了しましょう。

2　検索画面

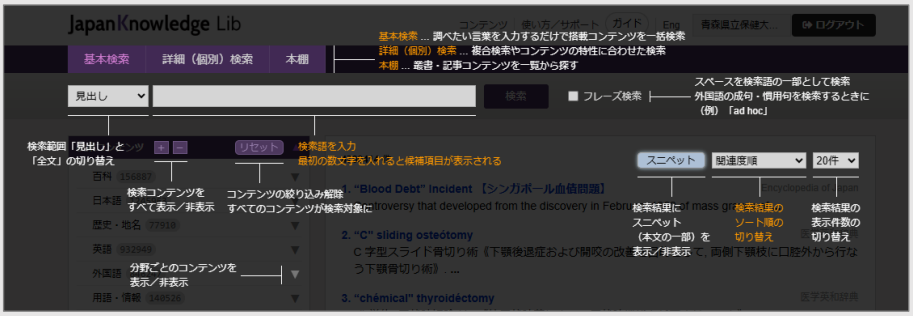
検索ボックスにキーワードを入力して、「検索」をクリックします。

初期設定では、検索範囲が「見出し」に設定されていますので、より幅広く検索したい場合は、プルダウンで「全文」を選択して検索してください。

検索方法の詳細については「使い方／サポート」、
アイコンの詳細については「ガイド」をクリックしてご覧ください。

「使い方／サポート」をクリックすると表示される画面

「ガイド」をクリックすると表示される画面

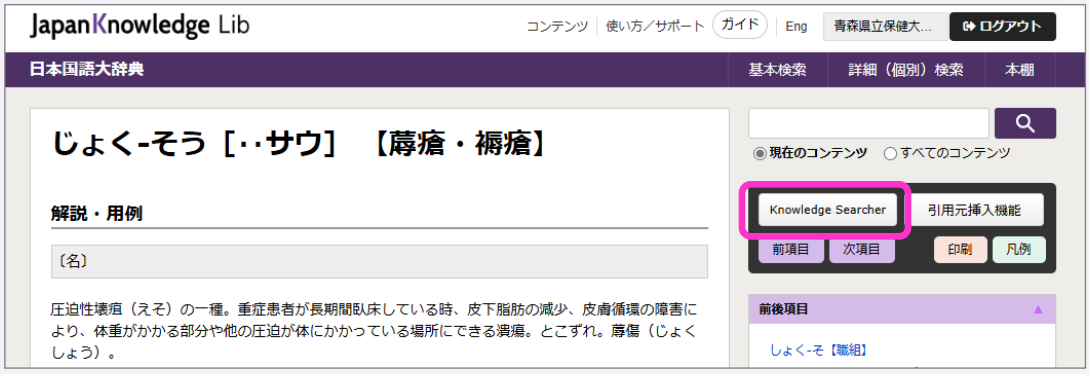


3　便利な機能

【Knowledge Searcher（ナレッジサーチャー）】

検索結果（詳細画面）の本文中にある単語・文章の意味を検索できる辞書機能です。

■「褥瘡」で検索し、「日本国語大辞典」の検索結果を開いた例



画面右上にある「Knowledge Searcher」をクリックして、機能のオン/オフを切り替えます。（初期設定はオフ「白色」です。オンにすると「ピンク色」に変わります。）

使用する時は、オンにし、本文中の調べたい単語または文章を範囲選択すると、検索結果が別窓で表示されます。

※検索できる文字数は 40 文字までです。40 文字を超えた場合、「Knowledge Searcher」は動作しません。

■本文中の「臥床」を範囲選択した例

【引用元挿入機能】

検索結果（詳細画面）の本文中にある文章をコピーし、任意のワープロソフトにペーストすると、自動的に引用元情報も追記できる機能です。

画面右上にある「引用元挿入機能」をクリックして、機能のオン/オフを切り替えます。（初期設定はオフ「白色」です。オンにすると「ピンク色」に変わります。）

「Knowledge Searcher」と「引用元挿入機能」の両方をオンにしている場合、範囲選択すると、先に「Knowledge Searcher」のメッセージが表示されます。ここでは「OK」をクリックし、範囲選択した状態で右クリックし、「コピー」をクリックします。

「引用情報を追加してコピーしました。」というメッセージが表示されるため、「OK」をクリックし、任意のワープロソフトにペーストします。

■引用元情報が自動入力された例

前半はペーストした文章・後半（下線部分）は自動追加された引用元情報

> 圧迫性壊疽（えそ）の一種。重症患者が長期間臥床している時、皮下脂肪の減少、皮膚循環の障害により、体重がかかる部分や他の圧迫が体にかかっている場所にできる潰瘍。
>
> "じょく‐そう［‥サウ］【蓐瘡・褥瘡】", 日本国語大辞典, JapanKnowledge, https://japanknowledge.com , (参照 2025-03-28)

※この機能はブラウザが「Google Chrome」「Microsoft Edge」の場合のみ使用できます。「Safari」など、他のブラウザでは機能しません。

※コピーした文章が 19 文字以下の場合は機能しません。

TOPICS

図書館の座席が増えました

R5年度後期・R6年度前期に実施した『図書館サービスの改善に関する学生アンケート』での「座席が足りない」という声を受けて、図書館の座席を増やしました。

図書館に入ってすぐ左側のエリアをリニューアル。
ここに6席設けました。
円形のテーブルですが、仕切りがあるので
個の空間を確保できます。

1階のメディアスペースだったエリアをリニューアル。
ここには個人席を4つ設けました。
蔵書検索コーナーもすぐ近くにあって便利です。

図書館広報キャラクター トリゾウ

2011年3月、社会福祉学科 成田悠介さん・福士悠輔さん・牧野祥諒さんのアイデアをもとに誕生。
図書館の広報活動で活躍しています。

青森県立保健大学附属図書館だより ラポール 第40号

令和7年4月発行
発行者 青森県立保健大学附属図書館
〒 030-8505 青森県青森市大字浜館字間瀬 58-1
☎ 017-765-2011
URL https://www.auhw.ac.jp/library/index.html